

# 「清水勇人市長と語る」タウンミーティング【大宮区】

## 〈開催概要〉

日 時：令和3年10月28日（木） 18：30～20：00

会 場：大宮区役所 6階 601・602会議室

参加者：15名（傍聴者3名）

市出席者：市長、都市経営戦略部

事務局：市長公室広聴課

開催テーマ：将来を見据え、さいたま市のまちづくりや市役所移転について考えよう

### 参加者との意見交換

#### ●参加者

##### 〈発言1〉

市役所は、少し暗いということと、たらい回しをされてしまうイメージがありました。ただ、この大宮区役所も移転して、新しくなって初めて来たとき、きれいというイメージはもちろんです。スペースが広いということと、職員がすごく生き生きしていると感じました。お役所という昔のイメージではなく、明るく広々とした、別にイベントがあるわけでもなくても行ってみたい、また相談に行きたいという気持ちにさせるような場所になるのが大切だと思いました。

私の職場も、古い施設からシンボルマークがある新しく大きなビルに移動しました。そのとき、私たち働く者の気持ちも、来館される方の気持ちもしっかりやっけていこうと変わりましたので、移転で明るいイメージになる、施設が新しくなるということは非常に大切なビジョンだと感じました。

##### 〈発言2〉

本日の意見交換の内容として、市役所についてというものがありますが、この市役所がどうあるべきかという中に、市議会がどうあるべきかについても考えてもらいたいです。国の制度と違って、地方は首長、市で言えば市長の権限が非常に強くて、議会の影が薄いと思います。今回のテーマ説明資料にも、議会棟や議場についてはどこにも書かれていません。国と違って、議会では議会棟や議場について関与できないからだと思います。行政部門である市長が議会、議場の在り方、給与など非常に権限が強いので、是非議会はどうかあるべきかについても考えてもらいたいです。現在の議場の在り方は粗末に扱われた典型的な例です。

##### 〈発言3〉

市役所は、区役所も含めて、申請や届出でしか行かないような場所というイメージです。2年前に家を建てたときに、申請届出以外の用件で市役所に行く機会がありました。相談するために行ったのですが、そのときに相談先がよくわかりませんでした。この件は道路なので道路の部署へ、この件は側溝関係なので別の部署へ、さらにこちらの件は下水関係なので、といった形で、何か所か回りました。私はまだそのとき若かったので最終的には

解決しましたが、年配者では難しく、嫌になってしまうと思います。新庁舎ではその点を改善してもらい、より市民が相談しやすい場所になってくれればよいと思います。

#### < 発言 4 >

本庁舎の移転ということですが、市民は滅多に行かない場所だと思いますので、我々市民は行政サービスを通じてメリットを得るということになると思います。ですので、機能については、働く方の効率が上がるものにしていただきたいです。単に見た目が変わっただけでは何も変わらないので、移転をきっかけに、働き方自体が変わるようになるとよいと思います。

大宮区役所も移転しましたが、見た目が変わり、きれいになっただけで、相変わらず書類の山を見かけるので、そういうことから変えていくとよいと思います。

#### < 発言 5 >

議会場も移転するのですか。

#### ◆ 市長

##### >> 発言 5

はい。

#### ● 参加者

##### < 発言 6 >

市議会をインターネットでたまに見ますが、カメラが1個しかないのもう少し増やしてほしいです。傍聴に行ってみたくありますが、居眠りしている議員を映してほしいです。

また、6月議会で市長がアーバンスポーツの場を確保したいと言っていますが、それはどこで行うことをイメージしているのでしょうか。各行政区に外でバスケットボールができる場所があるのか調べてみましたが、全部の行政区にはないので、つくってほしいです。

新庁舎の件では、先ほどPFIを活用すると言っていました。2018年にイギリスではもう新規のPFIは行わないと言いました。民間にお願いしても、コスト削減の成果がないと言っています。それなのに、できるのは10年後ですが、そういった方向性で大丈夫なのでしょうか。

また別の話ですが、洪水の危険を考え、例えば川の近くなどに家を建ててはいけななど、何かそういう規制を強化したほうがよいのではないのでしょうか。

##### < 発言 7 >

私は小さい頃から市内に住んでいますが、とても住みやすくよい環境だと思います。しかし、今はコロナ禍であり、子どもたちはあまり外で遊んでおらず、またあまり楽しそうに見えない子どもたちが増えていると思っています。ですので、もっと子どもたちが楽しめ、のびのびと過ごせる環境や、その親世代で悩んでいる方が多いと思うので、その方たちに寄り添って相談しやすい環境をつくってほしいです。

##### < 発言 8 >

まず新庁舎の整備については、未来の発展を支えるために複合型の施設にすることを提案します。なぜなら、多様な世代に愛されるということが重要だからです。まず、私自身、市役所には行くことも少ないですし、目的も限られています。そこで地域の人々の触れ合いの場を設けてはいかがでしょうか。例えば、フリートクスペースなどをつくって、子育ての相談ができるようにしたり、また、人々の交流を増加させて、伝統を引き継げるようにしたりしてみてもはいかがでしょうか。行政手続以外での訪問を増加させることで、地

域に愛着を持たせることができると思います。

また、災害対策も非常に重要になると思います。首都直下地震が30年の間に70%の確率で起こると言われていますが、耐震化ももちろん進めるとともに、インフラを止めないことも重要だと思います。周辺の道路や、さいたま新都心駅との連携を深めることも大切だと思います。

市役所の移転については、様々な問題が生じないか心配しています。移転というのは、非常に財政負担が大きいものです。また、そこに割かれる建築労働者は人手不足が非常に深刻な状況です。こうした財政面や人々の負担によって、震災対策や他の公共事業に遅れが生じてしまわないか非常に不安です。

## ◆市長

### >> 発言 1

市役所は少し暗く、たらい回しにされてしまうイメージがあるとのことでした。ほかの方で、どこに行ったらよいかわからないというお話もありました。市民の皆さんからすると、どこに行けばよいのかわかりにくいというお話は、おっしゃるとおりだと思います。わかりやすく表示をしたり、検索できたりすることにより迷わず目的の場所に行ける環境、また相談しやすい環境をつくることは重要だと思います。

大宮区役所の例を出していただきましたが、新しい施設になり、職員が生き生きと働いている様子がよく見えるようになると、雰囲気が変わって見えると思います。横浜市役所など、建て直しをした施設を見てきましたが、私もそのように感じます。デジタル化を含め、働きやすい職場をつくることは非常に重要だと思いますが、この移転も働き方が変わってくる1つの大きなきっかけにはなるのではないかと考えています。

### >> 発言 2

市議会の在り方に関して御意見をいただきました。大きさは別として、議会棟についてはこれから1つの案を出しながら、議会でも議論していただき、御提案をいただこうと思っています。ただ、先ほどテーマ説明でも申し上げたように、本庁舎の移転には議会での3分の2以上の賛成が必要であり、その後でない、議会に議論していただくことは難しい環境ですので、タイミングについてはもう少し後になると思います。

### >> 発言 3

市役所は申請や届出を出す場所というイメージがあり、また相談する際にどこに行けばよいのかわかりにくいというお話がありました。どこに行けばよいかをわかりやすくしていくことは大変重要なことだと思いますので、十分配慮して進めていきたいと思っています。

### >> 発言 4

新庁舎は働く人の効率が上がるものにならないといけないのではないかという御指摘をいただきました。本当にそのとおりだと思います。これからデジタル化が進んでいき、またコロナによっても働き方が随分変わってきました。民間企業でも大きく変わってきたと思いますし、私たち行政も変わらなければならない部分だと思います。

それを実現するための施設の在り方についても、これからはっきり詰めていかなければならないと思います。デジタル化によって、役所に行かなくてもできることが増えたり、先ほど書類の山があるというお話が出ましたが、そういったものは大きく減ってきたりすると思います。今さいたま市の取組で、書類の電子化率を上げるよう毎年目標を決めて行っており、かなり電子化率は上がってきていますが、まだ一部できていないケースもあります。

文書の電子化以外にも、デジタル化を進めていくために、デジタル八策という方向性を

決め、令和7年度までに原則すべての行政手続をオンライン化することを目指しています。そういった流れの中で、おそらくさらに働き方も変わってくると思いますので、そういったことを十分踏まえていきたいと思っています。

#### >> 発言 6

市議会のカメラのお話がありましたが、これは先ほどお話ししたように、議会棟についても、これは私たちも案としては出していこうと思っておりますが、議会の皆さんからいろいろな御提案や御議論いただきながら、中身については詰めていきたいと思っています。いかに開かれた議会にするか、市民にとって身近な議会にするかが非常に重要なテーマになると考えています。

アーバンスポーツについては、さいたま市としても、それができるスペースを増やしていきたいと考えており、2つの方向性で検討していく必要があると思っています。1つは、アーバンスポーツが今、大変人気が出てきているということもありますし、また、道路など危険なところでスケートボードなどをされているケースもあるので、できるだけ身近なところにスペースをつくっていきたいというものです。もう1つは、今回オリンピックでスケートボードの選手が頑張ったおかげで、将来ああいうふうになりたいという子どもたちがたくさん生まれたのではないかと思いますので、そのためにしっかりと練習ができるような場所をつくってきたいというものです。

#### ●参加者

##### < 発言 9 >

アーバンスポーツは「太宮駅グランドセントラルステーション化構想」の中には入っていないのですか。

#### ◆市長

##### >> 発言 9

まだ具体的な施設の検討段階には入っていません。

#### ●参加者

##### < 発言 10 >

バスケットボールのできる場所を探しています。住宅街だとどうしてもうるさいという声があるので、例えば駅前など、常に比較的にぎやかな場所につくるのもよいと思いますので、その構想の中に入れてほしいです。

#### ◆市長

##### >> 発言 10

そうですね。アーバンスポーツはこれからかなり人気が出る分野だと思っています。アーバンスポーツについては、CHIMERA Union（キメラユニオン）という団体と連携し、アーバンスポーツに関する様々な取組を実施しています。先週の土日もさいたま新都心で初心者向けの教室を開きました。今後もそういった機会をつくりながら、振興を図ってきたいと思っています。

新庁舎の件では、PFIの手法について御指摘いただきました。PFIにもいろいろな手法が出てきています。ケースに応じて、PFIによる費用の削減がどれくらいか試算したり、通常の入札方式を採用したりするなど、バリューフォーマネーを考えて選択しています。移転についても、そういったことも踏まえて考えていく必要があると思っています。

#### >> 発言 7

子どもたちが楽しめる環境や市民が相談をしやすい場所にしてほしいという御意見をい

ただきました。これは多分、新庁舎と現庁舎地の、両方に対してだと思いたすが、おっしゃるとおりですね。公園など、子どもたちが遊べる場所が少ないと言われていて、特にボールを使って子どもたちが遊べる場所がどんどんなくなっています。さいたま市では「スポーツもできる多目的広場」というものをつくっていて、50か所ぐらいありますが、広い公園の場合には一部にそういった場所をつくったり、公共用地ですぐに使わない場所については地域の人たちに管理をしていただいたりして、最低限の整備をして使っていただくような取組をしています。

これからの跡地の利用や新庁舎整備についても、そういった視点もしっかり持って対応していきたいと思いたす。

## >> 発言 8

新庁舎は複合型の施設にした方がよいとのことでした。市としても民間施設と複合化することも考えています。新庁舎の場所はさいたま新都心から非常に近い場所なので、豊島区のようなマンションとの複合化は修繕など管理上難しい面がありますが、オフィスや商業施設を併設する可能性は十分あり得ると考えています。そういったものと複合化させながら、いろいろな方に来ていただきやすい環境をつくっていく必要があると思いたす。

行政目的以外の訪問を増やすということは重要なことだと思いたす。通常、様々な相談や事業者の方々が役所を訪れる場合は行政目的ということになると思いたすが、その部分では区役所がさらに担っていくことになると思いたす。一方で、市役所が市民から遠い場所、存在になってはいけないと思いたすので、いろいろな工夫をする必要があると思いたす。

また、防災対策の御指摘もありました。区役所でいうと、大宮区役所は比較的広めなイメージもあるかと思いたすが、どこの区役所もあまりスペースに余裕がない状況で仕事をしています。災害時には、区をまたいでいろいろ対応していかなければならないケースが多くなると思いたすが、そういったときに各区役所だけではできない部分を本庁舎で担っていくことは大変重要なことだと思いたす。国の首都圏広域地方計画において、大宮は東日本の対流拠点として位置づけられました。東日本の玄関口として、人、もの、情報が交差し、それが東日本全体に広がっていく場所ということで位置づけられましたが、同時に、首都直下地震が起きたときのバックアップ拠点としての位置づけもあります。

そういう意味では、新庁舎を予定しているさいたま新都心地区は国の多くの省庁があるということもありますし、防災機能を高め、市民の安全を守ると同時に、首都圏の安全もサポートしていけるようなものにしていかなければならないと考えています。

また、移転について財政負担が大きくなってしまわないかというお話、また、それ以外にすべきものがあるのではないかと御指摘もありました。冒頭のテーマ説明のとおり、現庁舎はあと15年程度しか使えない状況ですので、現地で建て替えるのか、あるいはどこかに移転するのかを考えることとなりますが、現地で建て替えるには多くの課題があると考えていますし、コスト面でも新都心に移転したほうが少なくて済むと試算しています。

訪れてくださる市民の安全と、そこで働く者の安全を守らなければならないという最低限の使命があると思いたすので、遅くても15年後には建て替えをしなければなりません。また、現庁舎の老朽化に伴う今後の修繕等の維持費を考慮すると、建て替えを5年早くすることで約6億円の縮減ができるという試算もあります。

こうしたことから、10年後のさいたま新都心への移転という方向性を示したところですが、これはまだ決まったものではなく、最終的には議会で3分の2以上の賛成を得て初めて実施できるものであり、議会でも議論していただいているところです。

## ●参加者

### < 発言 11 >

現庁舎利活用については、文化施設より企業の活性化のためのラボをつくるのがよいと思います。今でいうと5Gのラボが幾つかありますが、時代の流行によって必要性が薄くなるかもしれないので、そのときどきによって中身を入れ替えることもできるような施設に使うとよいと思いました。

新庁舎の整備については、結構難しい話だと思いました。一般的な行政手続は区役所で行うとのことで、市役所の方は企業とのやり取りも多いのではないかと思います。また、今後デジタル化やテレワークが進んでいく中、10年後の社会を見据えた時に、そもそも区役所は必要なのか、市役所は必要なのかという考えも出てくるかもしれません。

ですので、今では考えられないようなアイデアを出していかないと、その時の社会に適した施設となるのは難しいのではないかと思います。

### <発言12>

新庁舎に求めることとして、高齢化社会における地域コミュニティと社会インフラを融合させた施設整備をするとよいと思います。どこの自治体も同じだと思いますが、特にさいたま市は、要介護と要支援者の増加数というのは、2020年までは16%程度で大体横ばいだったところが、5年後の2025年には18.5%に上昇するとの予測が出ています。また、一人暮らしの高齢者も2010年の3万8,000人から2025年には8万7,000人と、約2.3倍に増えることが見込まれています。

そんな中で、高齢者が加齢により心身が衰えてしまう前に予防したり、家にひきこもることをなくしたりするために、社会参加ができる機会の提供を新庁舎に求めたいです。具体的には、高齢者と子どもたちが集まってコミュニティがつかれたり、運動指導員のような方たちが機能訓練などを行えたりできる、笑顔と笑い声が響く庁舎になるとよいと思います。

社会インフラの面では、2019年の台風19号でも結構被害が出たと思いますが、雨水貯留施設や災害時のトイレなどを整備し災害時に強いまちとして、また日本経済新聞のSDGs先進度調査で1位となったさいたま市として、誇りを持って他の自治体のモデルになれるように、2050年のカーボンニュートラルや地球温暖化対策にもどんどん取り組んでほしいです。例えば横浜市のような豪華な庁舎を求めているのではなく、そういったモデルとなるようなものをつくっていただきたいと思います。

### <発言13>

私は学生なので、市役所を利用することは少ないのですが、殺風景というか、少し何か怖いようなイメージもあります。若い世代は選挙の投票率が低く、せっかく素敵な地域に住んでいても、自分の地域の魅力を知らない人も多いです。新庁舎では、地域の植物や食べ物、あるいは芸術品を知ることができるようなサービスがあったらよいと思います。また、市役所移転にはお金もたくさんかかると思うので、移転する理由やメリットを市民にわかりやすく伝えてほしいと思います。

### <発言14>

新庁舎に関しては、さいたま市は名だたる都市ですので、それなりの予算をかけて、立派なもの、市のシンボルになるようなものをつくっていただければよいと思います。

現庁舎は何度か入ったことがあります。働く環境としては非常に悪いと思いますので、働き方改革が反映された建物にしていきたいです。また、商工会議所など、いろいろな機関も身近にあるような配置にさせていただくと、利用する方々の利便性も増すと思います。

現庁舎地の利活用に関しては非常に重要だと思っており、もちろん浦和区役所の機能は残さなくてはなりません。あの場所は県庁から近く、警察署や消防署のほか市の外郭機関もいろいろある地域ですので、非常に高度な利活用が求められると思います。なので、

利活用はいろいろな方法があるかと思いますが、地の利を最大限に生かした活用を考えてほしいです。あと15年ぐらいしか使えない現庁舎は、場合によっては早めに壊して、一から広い敷地を使った活用を考えてほしいです。

### < 発言 15 >

さいたま新都心は、もう誰でも知っており既成の概念もできあがっていますが、今の新都心というのは、一体どこのための新都心なのかを考えました。さいたま新都心駅西口は、霞ヶ関の飛び地とも言えますが、その経緯を調べてみました。

歴代の官房副長官がさいたま新都心を国鉄の操車場の跡地につくるというアイデアを出して推進し、それに当時の畑崎玉県知事が賛同し進められました。霞ヶ関には国の中枢機関、省庁のほか、国から見れば出先機関とも言える関東ブロックの施設も多くあり、これらを埼玉県の国鉄操車場の跡地に移動させようという主旨の記録もありました。そして現状そのとおりとなっています。

ようやく新都心東口にもコクーンシティなどの商業施設ができて、さいたま市民が日常的に足を運べるような場所になってきました。国の飛び地のような面もある西口に対し、本当のさいたま市を東口につくるという強い意気込みを持って進めてもらいたいと思います。

### < 発言 16 >

現庁舎の利活用について希望を述べたいと思います。浦和は文教都市で、よい学校がたくさんありますし、優秀な学生もたくさんいると思いますが、その次の大学、研究機関というと、あまり思い浮かべられません。人材を配置する、育成するという観点から、先進的な研究機関があったり、全国、全世界から知識が集まるようなまちになれば、また誇りも持てるし若い人もどんどん来るのではないかと思います。

### < 発言 17 >

現庁舎地の利活用についてお話しします。池袋にある東京芸術劇場の野外ステージのような、いろいろな活動ができ、とてもよい雰囲気があるものを地上につくり、地下に関しては、浸水を起こさないような貯留施設を整備するとよいと思います。地震に関しては予測が難しいですが、浸水対策は予測ができるものだと思っています。そういった水に強いモデルとして、地上も地下も有効活用するとよいと思います。

私は大宮区に住んでいますが、さいたま赤十字病院や県立小児医療センター、さいたまスーパーアリーナなど、私は西口に関してはすごくよい地区なのではないかと思います。特に、さいたまスーパーアリーナは誇れるものだと思います。収容人数が多く、災害時の拠点にもなれるという強みがあると思います。

### < 発言 18 >

今後ガソリンの自動車は、少しずつですが少なくなってくると思います。いずれは、全部電気自動車になることも考えられます。日本は大分遅れているのでそうなるまでに時間はかかるとしていますが、市長はどのように考えていますか。まちづくりとも連動してくると思います。

## ◆市長

### >> 発言 11

現庁舎の跡地については、文化施設よりは企業の活性化のためのラボのようなものがないのではないかとのことでした。現庁舎そのものは一旦壊すことになり、その後の利活用ということになりますが、企業の活性化のためのラボは、さいたま市に産業を増やすための施設としてもすごく重要な視点だと思います。

今後ものすごい勢いでデジタル技術も含めた技術の進展があると思いますので、さいたま市でそういった機能を持った施設を持つことによって、将来的には税収を上げていくという考え方もとても重要だと思います。

### >>発言12・17

高齢化社会を見据えた対応が必要だという御指摘をいただきました。さいたま市は団塊の世代も多いのですが、団塊ジュニアの世代も非常に多いです。2025年から先もさらに高齢化が進むという状況になりますので、そのときの状況なども見据えていく必要があります。高齢者や子どもたちとの交流を含めて、コミュニティづくりも意識しながら進めていかなくてはならないと思いますし、その中で子どもたちや高齢者の方たちの笑顔や笑い声が響くような場所にしていきたいと思います。

また、災害対策のお話も出ました。2019年の台風19号では、桜区を中心にさいたま市始まって以来の被害が出て、床上浸水も1,000世帯以上ありました。これまでさいたま市は地震、台風などであまり大きな被害には遭わず、災害に比較的強い場所という部分もありましたが、これから大きく気候が変動していく中で、大きな被害も十分想定しながら対応していく必要があると思います。そういう意味では、お話がありました地下の活用や、水に強いまちをつくるという視点は非常に重要なテーマであると思います。

災害時のトイレについては、さいたま市はマンホール型トイレというものを避難所となっている市立学校に、大体2基から3基ぐらい配置してしまっていて、これも全国的にみても先進的な取組だろうと思います。さいたま新都心に新しい公園がありますが、あそこは一部外しますとトイレになったり、コンロが使えたりという防災型の公園であり、今それを増やして、災害のときに対応できるような取組も行っているところです。

### >>発言13

市役所は殺風景で、若者は少し行きづらいとのお話でした。大宮区役所は図書館も併設しているので比較的入りやすい場所ではないかと思いますが、手続などで来る方が多いので、そのように感じるのかもしれませんが。

その中で、地域の魅力を知ってもらえる場所になってほしいという御意見がありました。今の本庁舎もそうですが、さいたま市がどんなまちなのかは、市役所に入っただけでは多分わからないと思いますし、市のよさがなかなか伝え切れていないと思います。さいたま市にはたくさん魅力がありますし、先ほどSDGs先進度調査で全国1位という御紹介をいただきましたが、政令指定都市の幸福度ランキングでもさいたま市は第1位であったり、特に0歳から14歳の転入超過、いわゆる子育て世代の皆さんが転入してきている超過数では6年連続で全国第1位です。2020年中は、人口増加数も全国第1位でした。また教育面では、一昨年、全国学力・学習状況調査で小学校、中学校とも1位であったり、ほかにも岩槻の人形、大宮の盆栽、鉄道、サッカーを始めスポーツなど、さいたま市の魅力はたくさんあると思っていますし、それを市民の皆さんや来てくださった方に知っていただくこともすごく重要だと思います。そういったことも含めて発信ができる場所になったらよいと思います。

新庁舎の整備ですが、現庁舎は建築後45年経過し、あと15年以内には建て替えをしなくてはならないという前提条件があり、さらに、合併時の協定書で新庁舎を新都心周辺に移転するというものがありますので、そういったことも踏まえていかなくてはなりません。その上で、先ほどもお話がありました、少子化・高齢化が進んでいく中でも、さいたま市に住みたいと思われるまちをどのようにしてつくっていくのか考えていく必要があります。そのためには歳入も上げなくてはならないし、できるだけ福祉のサービスを落とさないようにもしていかなくてはなりません。そして、さいたま市の魅力を発信していくことにより、持続可能なまちになっていかなければならないと思っています。そのために、この移転は必要であるということをお理解いただきたいと思います。



現庁舎はあと15年使えるのに、10年で移転したのではもったいないのではないかという御意見もあるかもしれませんが、しかし15年使うと、庁舎の維持管理費、修繕費が先ほど申し上げたように6億円程度多くかかってしまい、デメリットが大きくなることから、10年で移転をしようとしていただいていたということになります。

#### >> 発言 14

新庁舎は市のシンボルになるようなものがよいのではないかというお話でした。シンボルとしての役割も新庁舎の重要なテーマの一つになると思います。豪華なものというよりは、さいたま市の魅力を表すものとして、外観も中身も象徴的な施設にしていきたいと思います。そして先ほども申し上げましたが、SDGsの先進度が高い、災害に強いといった市の特徴を表す場所にしたいと考えています。

また、現庁舎地の利活用についてですが、おっしゃるとおり、浦和はまさに県都ですので、現庁舎の周辺は、県庁はもちろん、県のいろいろな施設が多くあります。また、浦和区に転入された方の約3割は、教育環境がよいという理由からであり、10区の中でも、多く、人口が増えている区でもあります。

経済や商業の面でいうと、何といたっても大宮駅があり、非常にパワーを持った都市だと思いますが、浦和の魅力ということで考えると、文教や県都としての魅力がメインだと思います。大宮の経済と浦和の文教、県都というもののバランスがよくなっていくことがさいたま市全体の魅力を押し上げる大きな力になると私たちも考えていますので、そういった部分をしっかり踏まえながら検討していきたいと思います。

また、商工会議所なども新庁舎の身近なところにあるとよいのではないかという御意見もありました。デジタル化の技術が発展することによって、社会がどう変わるか、働き方がどう変わっていくか、完全には予測ができないと思います。民間企業も、大きな本社を持たないという時代にもなっていますし、いろいろな働き方の変化が出てくると思いますので、そういった変化に柔軟に対応できる施設である必要があると思っています。

#### >> 発言 15

新都心の西口はミニ霞ヶ関のようでもあり、本当のさいたま市を東口でつくるという意気込みで進めてほしいとの御意見でありました。もちろん西側も、先ほどもお話ありましたが、さいたまスーパーアリーナなど魅力的ではありますが、東口はまた西口とは少し違う部分も含めて魅力的なものにしていきたいと思います。少しずつですが、新都心の景色も変わってきたと思っていますし、新都心はさいたま市の新しいシンボリックなエリアでもあると思っていますので、そこをうまく生かしたまちづくりを目指していきたいと思います。

#### >> 発言 16

現庁舎地の利活用について、大学や先進的な研究機関をもっとつくってはどうかという御意見をいただきました。

文教都市を象徴する教育機関として、高校では県立浦和高校や県立浦和第一女子高校、大学は埼玉大学がありますが、高等教育機関が充実すれば文教都市としてのパワーが大きくなるのではないかと、またより魅力的に発信できるのではないかという御意見でした。文教のシンボルになるものとして何をしていくか、今お話のあった大学や研究機関の誘致もその一つだと思いますし、それをどう表現していくかということについて考えていくということも重要だと思っています。

浦和は様々な人材を輩出する地域であると思っていますし、それを求められている地域でもあると理解しています。

#### >> 発言 18

交通手段に関して、これからどのような時代になっていくのか、市長はどう考えているかとのお話でした。電気自動車については、「E-K-I-Z-U-N-A Project（イーキズナプロジェクト）」という取組を、2009年からスタートしています。電気自動車の普及促進を図るもので、電気自動車のための補助金制度を設けたり、小学校や商業施設で電気自動車を見せたり乗ってもらったりして、いろいろな電気自動車、新しい次世代型の自動車を普及させていきたいと考えています。さいたま市は自家用自動車からのCO<sub>2</sub>の排出量が他の都市と比べて割合が高かったということもあり、もっと環境により脱炭素なまちをつくっていくためには、交通手段を変えていくことがとても重要だという視点から進めてきました。

電気自動車の充電器の数は、さいたま市は他の都市と比べても多いのではないかと考えていますが、さらに、専用アプリで電動アシスト付自転車やスクーター、超小型EVの設置場所の検索、利用予約、決済までの一連の手続きができる、シェア型マルチモビリティの実証実験を新都心から大宮にかけて行っていますので、是非一度お試しいただきたいと思います。また、電車、バス、タクシーといった公共交通を将来的にはサブスクリプション（定額制）で乗れるような、月に幾らで何回でも自由に乗れるというような都市を目指していきたいということで、国土交通省のスマートシティモデルプロジェクトにも位置づけていただいて、さいたま新都心でフランス製の自動運転バスの実証実験も行いました。

将来的にはそういった自動運転のバス、あるいはモビリティというのも活用しようと考えておまして、さいたま市はそういった環境により車、移動手段の先進都市でもありません。今までは浦和美園での実証実験が多かったのですが、それ以外の地域でも今は行っています。さいたま新都心周辺や大宮駅周辺、また、現庁舎の周辺などについては、将来的には自動運転のバスであったり、マルチモビリティで、アプリを見ると環境により移動手段を選んだり、あるいは健康により移動手段などいろいろなものを選んで、それにポイントがつくような仕組みもできないかということで、今、市の都市局や都市戦略本部でそういったものの実証実験を入れながら、進めさせていただいているところです。

おっしゃるとおり、もうそういった時代に入ってきていると思います。ガソリン自動車の時代から、まずは電気自動車、それから将来的には水素を使った自動車、燃料電池車などが主流になってくると思っています。ちなみに、水素ステーションもさいたま市は移動式を含めて5か所あり、比較的水素の供給がしやすい状況にあります。

ということで、皆さんから多くの御意見をいただきまして、ありがとうございました。本当にいろいろな参考になる、またいろいろな新しい視点を取り込んだ御意見などもいただいて、大変私たちも勉強になりました。

この新庁舎の移転ということについては、お話がありましたように、なぜこの時期に移転のことを考えなければならないのか、移転するメリットとデメリット、お金をそんなにそこで使ってよいのかなど、私たちはしっかり説明していく必要があると思っています。先ほど言いましたように、現庁舎が使えてもあと15年という状況であったり、これまで合併するに当たっているいろいろな取決めもしてきましたし、それにまた、これからのさいたま市のまちづくりということを考えたときにも、より有効なものにしていきたいという視点からも、さいたま新都心につくることが望ましいだろうという結論が出て進めているところですが、そういったことなどを踏まえて、一つ一つ皆さんに御理解をいただけるような場をつくり、また御理解いただけるように、しっかり説明もしていきたいと思っています。

その中で皆さんからいただいたいろいろな視点をしっかり取り入れながら、私たちも進めていきたいと思っています。

お話ししたいことはたくさんありますが、時間の関係もありますので、このぐらいにさせていただきますが、引き続き、皆さんからいろいろな御意見を頂戴しながら、新庁舎の移転、それから整備を進めていきたいと思っています。

先ほど冒頭にも申し上げましたとおり、今ちょうどパブリックコメントを実施していますので、ここで言えなかったなと思うようなことがありましたら、ホームページにも載っていますので、御意見をいただければと思います。

私たちも移転する上において、市民にとってよいものにしていかなければならないと思っていますので、是非引き続き御理解とまた御協力をいただければと思っています。

今日は本当に長い時間ありがとうございました。

## ■ 補足説明

### 「洪水の危険等を考えた規制」について

洪水の危険等を備えた規制につきましては、市内一級河川における特定都市河川の指定等の動向を注視して、検討してまいります。

(建設局 土木部 河川課)

### 「デジタル化やテレワークが進んでいく中での新庁舎のあり方」について

令和3年12月に策定した「新庁舎整備等基本構想」におきまして、新庁舎の機能理念の一つに「DXなど今後の変化に柔軟に対応し、効果的、効率的に行政運営が行える庁舎」を掲げており、デジタル化の進展などによる変化に対応できるフレキシブルな庁舎を目指してまいります。今後も市民の皆様のご意見を伺いながら、具体化に向けて検討を進めてまいります。

(都市戦略本部 都市経営戦略部)

### 「マンホール型トイレの整備」について

避難所となっている市立学校のマンホール型トイレ(貯留型)整備については、平成21年度から平成26年度にかけて実施しています。現在は、下水道の普及に伴い、バキューム車が減少していることから、新設学校への新たな整備は行わず、維持管理のみ行っているところです。

(総務局 危機管理部 防災課)

### 「幸福度ランキング」、「0歳から14歳の転入超過」、「人口増加数」について

各ランキング等の出典と時点については、以下のとおりです。

- ・幸福度ランキング…「全47都道府県幸福度ランキング2020年版」(東洋経済新報社)
- ・0～14歳の転入超過…「住民基本台帳人口移動報告(2020年結果)」(総務省)
- ・人口増加数…「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和3年1月1日現在)」(総務省)

(市長公室 シティセールス推進課)

### 「浦和区に転入された方の約3割が教育面を理由にしていること」について

令和2年度さいたま市民意識調査で、引っ越してきた人に、今の地域を選んだ理由を聞いたところ、「子どもの教育環境がよいから」と回答した人は、浦和区居住者で30.2%となりました。

(市長公室 広聴課)

### 「シェア型マルチモビリティの実証実験」について

シェア型マルチモビリティの実証実験は、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区において令和3年3月より開始したところであり、他のエリアへも順次拡大を行っているところです。

(都市局 都市計画部 都市総務課)